

(別紙)

## 1 全体的事項

- (1) 仙台市環境基本計画である「杜の都環境プラン」において、仙台市は「自ら率先して環境に配慮した行動を推進する必要がある」と述べられており、当該事業は仙台市が実施する事業として他の事業者の環境配慮への取組みを先導していくものとなることから、事業の実施にあたっては可能な限り環境に配慮したものとすること。
- (2) 病院は、その特性から常時電力や熱などのエネルギーを相当量使用しており、同規模の一般的な建築物に比べエネルギー消費量が大きい施設であることから、他の先進事例も参考にしつつ、地球環境に配慮した低炭素型の施設整備のあり方や施設の運用方法などについて検討をするとともに、その内容について環境影響評価準備書に可能な限り具体的に記述すること。
- (3) 空調用ボイラーによる二酸化窒素の排出、施設から排出される水の汚れなど環境影響評価項目として必要なものがいくつか選定されていないことから、環境影響要因と環境影響評価項目の選定について、病院という施設の特性も考慮し再検討を行うこと。
- (4) 当該施設が計画地周辺から受ける騒音や振動などの影響についても明らかにした上で、病院という施設の特殊性を考慮し、病院内部の良好な環境の確保について検討を行った結果を環境影響評価準備書に可能な限り具体的に記述すること。

## 2 個別的事項

### (大気環境)

- (1) 交通量の予測を行う際は、当該施設の供用による交通量の増加のみならず、周辺施設の供用による影響も可能な限り考慮すること。
- (2) 地下鉄長町一丁目駅から当該施設へのアプローチを工夫して公共交通機関の利用促進を図るなどにより、供用後の自動車による騒音や振動を低減することについて検討するとともに、その内容について環境影響評価準備書に可能な限り具体的に記述すること。

### (土壌環境)

- (3) 事業計画地は広瀬川下流部に近接しており、軟弱地盤が存在する可能性が高いことから、掘削や地下水利用による地盤沈下の影響について適切に調査、予測及び評価を行うとともに、地盤調査及び設計の段階においては地震時における地盤の液状化発生の可能性についても考慮すること。

(その他の環境)

- (4) 風害の予測を行う際には、日本建築学会作成の「市街地風環境予測のための流体数値解析ガイドブック」を参考とすること。

(動物, 植物, 生態系)

- (5) 敷地内の緑化にあたっては、「地理的位置・地盤環境・生育環境も考慮した郷土種の導入」、「すぐれた環境保全機能, 自然とのふれあい及び景観を創出する緑地」、「多層化した緑地空間」、「生物多様性や自然度の高い緑地」、「風害や沿道の騒音を低減するような緑地の配置」などの事項についても検討するとともに、その内容について環境影響評価準備書に可能な限り具体的に記述すること。

- (6) 動物についての調査, 予測及び評価を行う際には、野生鳥類の当該施設への衝突事故の回避についても考慮すること。

(景観)

- (7) 広瀬川や杜の広場など周辺的环境や景観との調和に配慮した施設となるよう検討するとともに、その内容について環境影響評価準備書に可能な限り具体的に記述すること。